

概要

summary

PC浮体は、函体とそれを係留する施設から構成されています。函体やその接合部にPC技術が用いられています。



特長

構造特性

浮体構造なので、水深、海底地質の影響をほとんど受けず設置可能です。また係留施設以外は、地震による影響を受けることがほとんどありません。乾舷が常に一定であるため、干満の影響を受けずに、船舶の乗降、荷役が行えます。

施工性

製作ヤード、または簡易ドックにてドライの状態で作成するため、施工の合理化が図れます。また函体は、洋上で接合できるため、浮体の大型化が可能となります。

耐久性

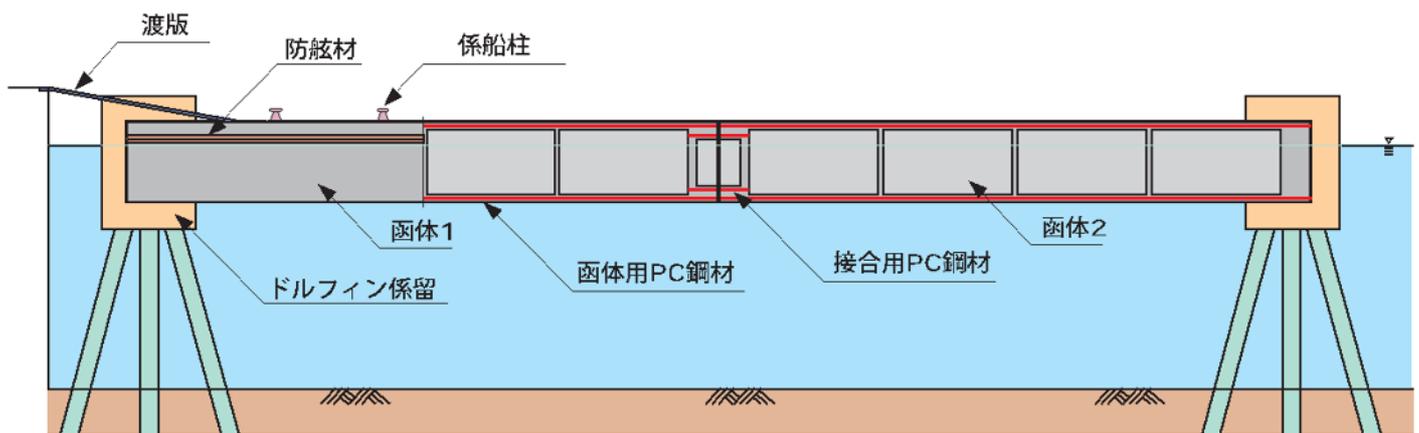
プレストレスを与えることによって、鋼材腐食や疲労耐力低下の原因になるコンクリートのひび割れを制御できます。非常にまれに作用する強大な波力等の荷重によりコンクリートに、万一ひび割れが発生しても、荷重が除去されると、ひび割れが閉じる優れた復元性を有します。

環境性

構造物が浮体であるので、潮流変化、海中の汚濁が生じにくくなります。また、函体の撤去、移設により、設置前の海域環境に戻すことができます。

一般形状

general view



施工

execution

PC浮体の標準的な施工手順は以下のとおりです。



函体製作工

防水工



函体吊降工

洋上接合工



函体調整

バラスト水注入による高さ調整



仮接合



鋼材挿入

上床版鋼材挿入



緊張

上床版緊張



グラウト

下床版鋼材挿入



曳航

下床版緊張



係留

竣工

